



Title	癌と人 第32号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2005, 32
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23724">https://hdl.handle.net/11094/23724</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会  
前理事長 千代 賢治



\* 表紙絵解説

## 「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

・ごあいさつ	1
松本 圭史	
・がん治療の進歩：何故完治例が著増したか	2
松本 圭史	
・乳がん検診に想う	5
田口 鐵男	
・乳がんの検診を受けよう	8
小塚 隆弘	
・大阪消化管がん化学療法研究会(OGSG)の あゆみ(3)	10
古河 洋	
・がんを抑制する食品	12
岩永 剛	
・乳癌に対する内視鏡手術	15
玉木 康博	
・がん遺伝子 myc を手がかりに新しい 癌治療法開発を目指す	18
常岡 誠	
・白血病関連遺伝子 AML1 の機能	19
黒川 峰夫	
・ホジキンリンパ腫細胞株における Chk2 の 発現異常	20
大石 勲	
・癌抑制遺伝子 PTEN が制御する肝臓の 脂肪化と造腫瘍性	22
岸本 宏之	
・EB ウィルスによる発癌	23
大谷 直子	
・潰瘍性大腸炎の病態形成における Reg 蛋白の役割	24
福井 広一	
・細胞が接着するということ	26
伊藤 彰彦	
・発癌を制御する RNA 遺伝子の研究	27
三浦 典正	
・Fas リガンドによるアポトーシスと炎症と癌	28
須田 貴司	
・乳癌の発症とアボリボ蛋白 E	30
満田 憲昭	
・抗がん剤効用の判定法開発へ向けて	31
加藤 順也	
・ES 細胞と腫瘍細胞	32
山中 伸弥	
・平成 15 年度事業報告	34
・平成 15 年度収支計算書等	40
・平成 16 年度事業計画書	45
・平成 16 年度収支予算書	46
・平成 16 年度寄附者御芳名	47
・財団法人大阪癌研究会寄付行為	54
・(財)大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿	57